令和2年度 富里歴史講座　　於：富里市立図書館　　２０２０・９・２７

写真で見る富里の歴史

－七栄開拓１５０年。大正・昭和・平成の記憶－　その３

林　田　利　之

富里の写真資料

富里市内に残されている写真で、明確に最も古いといえるものは大正１４年に「末廣農場職員」を写したものと考えられます。財閥であった岩崎家が経営した大農場であったことから、記録として頻繁に写真が撮影されたのでしょう。

富里でカメラが普及し始めるのはそれから随分と時間が経ってからであり、一般の人々でも比較的裕福な家庭にカメラが普及し始めるのは昭和３０年代以降であったと考えられ、それ以前の写真はいわゆる「写真屋さん（成田・八街・佐倉にあった）」のスタジオで撮影したものや、出張して撮影して貰った物がほとんどと考えられます。

このため、当時のカメラの性能は現代のものに比較して良いものではなかったはずですが、フィルム自体が大判であったためか、撮影された写真は細部まで鮮明に映し出されており、また、丁寧な現像処理が施されたものが多いことから、長い年月が経っているにも関わらず、綺麗な状態で残っているものが多いということが特徴といえます。

また、昭和２９年５月から発刊された「広報とみさと」には、同年１２月から写真が掲載されるようになりますが、それらのネガは残念なことに昭和５０年代後半に廃棄されてしまい、印刷物だけが残っている状況でした。しかし、市役所倉庫の奥に人知れず残されていたものが近年数枚発見されており、過去の富里の姿を知る手掛かりとなっています。

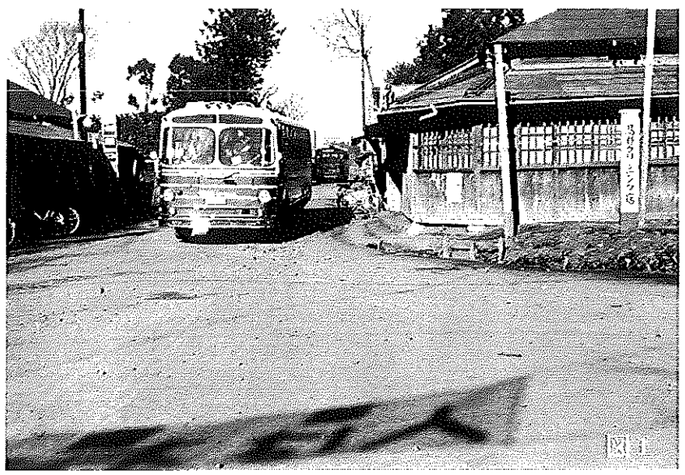

図１

図２

図３

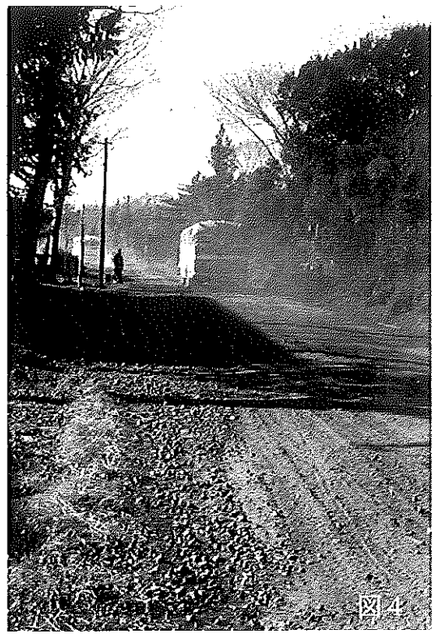

図４

図１～４　正月の七栄交差点【昭和 33 年撮影】

年末年始の交通規制により、大型バスが富里七栄交差点を迂回路として利用したことにより、砂利道だった村道が大幅に傷んだことを伝える内容であった。

①には当時の農協購買所が写り、②には迂回の交通規制を示す看板が写されている。また、看板の上には横断幕が掲げられ「人は右　車馬は左」と書かれているのがわかる。